

皮膚科のトリビア

236

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●第87回日本皮膚科学会東京支部総会から

令和5年11月18日

皮膚ジフテリア

40歳代の男性。パプアニューギニアに滞在中に、頻回の虫刺されを経験した。発熱とともに四肢に熱感を伴う紅斑が生じた。1週間ほどで発熱は改善したが、紅斑部は潰瘍を形成した。細菌培養でグラム陽性桿菌、*Corynebacterium diphtheriae*が検出され、皮膚ジフテリアと診断した。ジフテリア毒素遺伝子のPCRは陰性で、発熱以外の全身症状、気道の病変はなかった。ペニシリン系抗菌薬で改善した。

皮膚ジフテリアは、接触感染が主体で、不衛生な環境で生活する人におこりうる。潜伏期は2～5日。排菌は2週間続くが抗菌薬投与で速やかに消失する。毒素産生菌であれば、ジフテリア毒素により心筋炎、脱髄性神経障害、腎尿細管壊死などをきたすことがある。

一言コメント

「二類感染症だが、原因菌が*Corynebacterium diphtheriae*であっても、ジフテリア毒素非産生性の菌は届出対象外。*Corynebacterium ulcerans*および*Corynebacterium pseudotuberculosis*はジフテリア毒素産生菌であっても届出対象外らしい。みたことがないが、慢性偽膜性皮膚潰瘍と患者の生活状況から、念のため考えておく必要があると思った。」

●第87回日本皮膚科学会東京支部総会から

令和5年11月18日

血汗症

10歳代の男子。起床時に顔が赤く血で染まっていることに気づいた。入浴、運動後にも同様の症状が出現するようになった。初診時、顔面、四肢、手掌などが赤みを帯びていて綿棒でこすると赤く染まった。皮膚に創傷はなく、血液検査で凝固障害を認めず、皮膚生検所見も器質的变化はなし。血汗症と診断した。プロプラノロール内服を行い、2カ月で症状は軽快した。血汗症は創傷のない皮膚から汗とともに血液が滲出するとされる希少疾患で、汗腺を栄養する毛細血管から赤血球が漏出し、汗管を通して皮膚表面に滲出する。精神的ストレスが誘因となる場合があること、β遮断薬が奏効することから、交感神経の過活動が血管に機能的な障害をもたらし発症すると考えられる。

一言コメント

「不思議な希少疾患である。遺伝的な要因がないのか、気になった。」

●第87回日本皮膚科学会東京支部総会から

令和5年11月18日

*Trichophyton indotineae*による
顔面白癬

40歳代のフィリピン人女性。数年前から顔面に紅斑局面を生じ、夏季に悪化する。KOH直接検鏡で菌糸があり、培養で*Trichophyton indotineae*

が検出された。薬剤感受性ではテルビナフィン耐性だった。*Trichophyton indotineae*による白癬は2020年から散見されるようになり、今後拡大する懸念がある。国内では東北、関東、九州の複数箇所における体部白癬から分離されている。患者の多くは外国籍であるが、海外の渡航歴のない日本人からも分離され始めている。サブローブドウ糖寒天培地上での集落は白色から淡黄褐色の扁平で短絨毛状または粉末状で、*Trichophyton interdigitale*と酷似している。

一言コメント

「2000年ごろ、*tonsurans*の体部白癬、頭部白癬の症例が日本で蔓延してきたときにもびっくりしたが、*indotinae*も拡大してきそうである。広範囲の体部白癬がこの菌種の特徴的な病変で、薬剤耐性も問題になっている。外国人の体部白癬は、培養するようにしようと思った。」

●第87回日本皮膚科学会東京支部総会から 令和5年11月18日

老齡マウスを用いたアロネーシスに有効な薬剤の検討

アロネーシスとは、衣類の擦れなど、通常では痒みの原因とはならないわずかな刺激が痒みを誘発する痒覚過敏現象のこと。中枢神経で神経伝達物質として作用し、アロデニアに参与しているコレシストキニンが、触覚を痒覚に変換する経路に関与している可能性がある。老齡マウスを用いてアロネーシスに有効な薬剤の同定を試みた。ペボタスチンベジルでは抑制されなかったが、プレガバリン、ノイロトロピン、バリシチニブで抑制された。3つの薬剤の鎮痒効果は下行抑制系路の賦活化を介した作用であった。

一言コメント

「老人性皮膚癢痒症の治療薬として、プレガバリン、ノイロトロピンは臨床でも使っていけそうである。先輩の教で、当院では以前から高齢者の多形慢性痒疹にノイロトロピンの筋注を行っているが、間違っはなかったと確認できた。」

●第53回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会から 令和5年12月8日

仕事のかぶれ情報サイト

職業性皮膚疾患の症状、原因、対策をまとめたサイト (<https://www.uoehkabure.com/>) を産業医科大学皮膚科学教室が運営している。職場の環境改善が必要な場合には産業医や保健師、衛生管理者に提示するよう、医療機関と職場の連携のための情報共有カード、主治医意見書のひな型も掲載した。また、日本皮膚免疫アレルギー学会はこれまでの職業性皮膚疾患NAVI (<https://www.research.johas.go.jp/hifunavi/>) をSSCI-Netと統合するように準備を進めている。

一言コメント

「産業医活動も重要な医師の任務だと考えているが、皮膚科との接点は多くない。資格をとるにはハードルが高い。ただ、仕事と病気の「両立支援」は癌に限らず、皮膚疾患でも考えたほうがよいと思っている。貴重なHPの情報だった。活用したい。」

●第53回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会から 令和5年12月8日

デュオリスSD1ウルトラによる強皮症の潰瘍治療

難治性足底腱膜炎に保険適用を有する、体外衝撃波疼痛治療術(ESWT)に用いる機器の紹介。もともとは整形外科領域の疾患に対して、除痛のために利用されているが、東北大学循環器内科では、血管形成を促す作用に注目し、医師主導治験を経て、全身性強皮症に伴う難治性潰瘍に対する治療機器として2022年12月に薬事承認となった。侵襲の少ない治療法として注目されている。

一言コメント

「もともとは尿管結石の粉碎に使われていた体外衝撃波治療。合併症も少なく、安全で非侵襲的な治療法である。強皮症のほかにも、狭心症や下肢閉塞性動脈硬化症などの血管系の疾患で、有効性の検証を行っているという。近隣の医療機関で取り扱いがあるのか、調べてみよう。」